

講演

日時／平成28年9月13日(火)

会場／日本特殊陶業市民会館フォレストホール

名古屋市内9法人会合同講演会

地方自治と 市民社会のゆくえ

慶應義塾大学法学部教授

片山善博氏



あきれた富山市議の辞任

私は税務署長をしたことがあり「法人会」と聞くと懐かしい感じがします。秋田県能代でのことで、昭和54年、27歳でした。その当時、法人会はまだ法人化していなくて、社団法人になるために、法人会会長さんや専務理事さんと一緒に管内に出向き、

会員増強や、どんな公益事業をしたらいいか、税務署として不即不離の関係で応援していたことを思い出します。

私は大学を出て自治省(現総務省)に入り25年ほどいましたが、主に地方自治を所管する部門で、地方税(固定資産税・市民税・県民税・自動車税など)の制度がどうあるべきかを検討したり、地方自治の仕事が円滑にできるように後押ししてきました。

「地方自治」とは何か。市民の皆様を支払っていただいた税をどう使うか。どんなルールで誰からどんな基準で頂くかを決めるのが「地方自治」です。

最近の地方自治の話題としては、富山市会議員が政務活動費の領収書偽造による不正がバレて辞職したことですが、これは脱税です。

議員の役割は、地方自治法に書かれてあるように固定資産税や市民税など地方税の税率を議会で決めて、そして市長や知事が部下たちと考えた予算案を吟味し、承認することです。もうひとつ重要な役割は、決めた通りに使っているか、無駄遣いして

いないか、目を光らせることです。

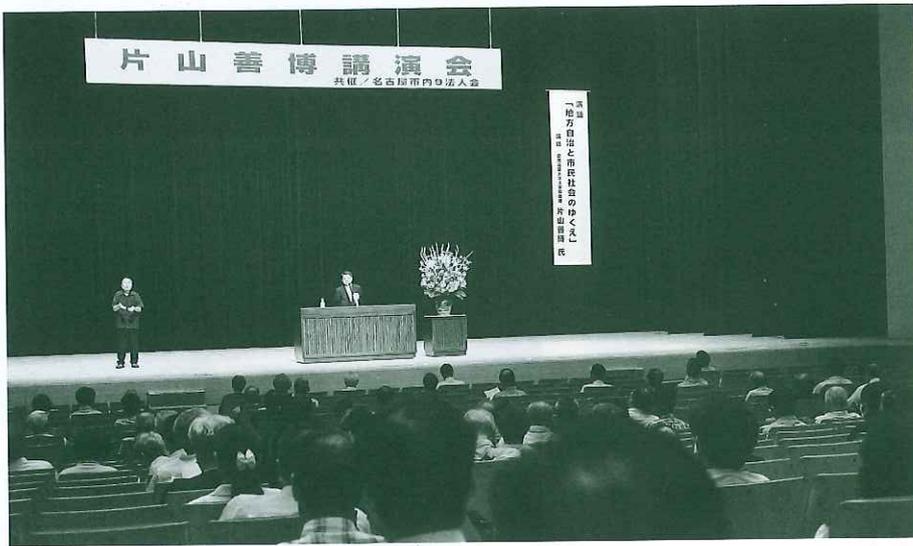
それをチェックする責任のある議員が領収書を偽造するのは言語道断です。当然、議員が悪いですが、その議員を選んだのは市民の皆様です。最後は市民の皆様が責任が問われます。

富山市は、コンパクトシティとして電車を市中に走らせ、機能を集約させて効率的に町づくりされています。また環境に配慮して自転車を機能的に利用できるように駐輪場を随所に設けていて、私としては好感度の高い町でしたので、議員の醜態を見てがっかりしました。

豊洲市場問題からみた 東京都政

東京都の豊洲市場移転問題ですが、率直に言って「そんなものだろう」と思いました。と言いますのも、私は鳥取県の知事を8年間務めました。人口60万人弱、東京都の20分の1ほどの日本で一番小さい県から東京都をみていると、気になることはいっぱいあったのです。その印象は今でも変わっていません。





日時 平成二十八年九月十三日(火)午後二時三十分
会場 日本特殊陶業市民会館フォレストホール
名古屋市内九法人会合同講演会
演題「地方自治と市民社会のゆくえ」
講師 名古屋大学法学部教授 片山善博氏

築地の中央卸売市場が手狭で古くなったので豊洲に移転することになったのですが、問題がいっぱい出てきました。

土壌汚染対策として盛り土することになっていたのですが、建物の下が盛り土されていなくて空間だったのです。東京都は全部盛り土をしたとHPで公表していますので、それでは都民や議会を騙したことになります。どうしてこんなことが起こったのか。

知っていて、公表内容と事実が違っていたら悪質ですが、私はHPで広報する部門と工事の部門との連携がされていなかった、情報を共有できていなかった可能性があると思います。そうであればガバナンスが効いてないということです。

舛添前知事は毎週湯河原に行っていたり、よく美術館を視察されていたようですが、知事をしていた私の経験から、よくそんな暇があったなと思います。

東京都は20年以上トップのガバナンス(組織の統率)が効いていないと思います。いろいろな部局を統合して、相対立する利害を治める役割の人がいなかったということです。副知事がしっかりしていればカバーできますが、東京都は副知事が5人いますので、それぞれに担当

分野を決めてお互い相手の領域には口出ししない、情報が共有されない縦割りの構造的な問題があったと思います。

広報と情報公開とは違う

2つ目の問題点は情報公開です。情報が市民の皆様と的確に共有できていたか。市民として自治体を監視する市民オンブズマンが各地域にあります。特に税の使い方を監視する団体です。私は市民オンブズマンは知事として重宝しました。依頼していないのに無料でしっかりチェックしてくれるのです。部下職員の中には不心得者もいるわけですから、チェックしてくれたら、大事になるのを未然に防げるわけですから私としては有り難かったです。

市民オンブズマンは自治体の情報公開度をチェックしてランキングをしていて、鳥取県は1位か2位でしたが、東京都はいつも47番目でした。論外のときもありました。

そもそも東京都には、適切に情報を公開しようとする姿勢がありません。東京都に情報公開請求すると、ある人が東京都の情報公開は“ノリ弁”と揶揄しま

したが、多くを黒マジックで塗って公開しているのです。

いろいろな情報を出しておけば、批判を受けて身を正して大事になる前に初期消火できますが、東京都はノリ弁でしたから大火事になりました。

ある都知事経験者は、「ツイッターなどで積極的に情報を出すように指示していた」と言っていました。情報公開とは、「公開したくないけれど出さざるを得ない仕組み」で市民の権利なのです。出したい情報しか出していないのは“広報”です。

チェック機能を失った都議会

組織は人間がやることです。から間違いを起こします。チェックする機能が働けば間違いは早い段階でくい止めることができます。会社なら監査役、公認会計士、株主によるチェック機能があります。最近は社外取締役を置く企業も増えています。

自治体も特に税の使い方をチェックすることは重要ですので、各自治体には数人の監査委員がいますが、影が薄いです。あまりチェック機能を発揮していないかも知れません。



身近な市会議員選挙にもっと関心をもとう

これからは身近なことにもっと関心をもってください。

選挙というと、衆参の国政選挙は話題になり盛り上がります。県知事や市長選挙も関心をもたれますが、市議会議員の選挙には「誰がなっても同じ」と関心が薄いです。でも一番身近な選挙が一番大事なんです。そこで市民の皆様にとって重要な福祉や教育、環境の分野にどれほどお金を使うかを決めているのです。

保育所待機児童問題で騒がれていますが、なぜもっと保育所にお金をシフトさせなかったのか。それを決めたのは議会です。

どういう代表を選ぶか。有権者一人ひとりの関心と見識の問題になるのですが、日頃から身近なところに目を向けて、より良い地方自治を市民の力で作り上げなければなりません。

税金の使い方をよりよくするというのに、皆様ももっと強い関心を持っていただければと思います。

※この記事は平成28年9月13日(火)の講演を要約したものです。

文責/公益社団法人名古屋西法人会

最大のチェック機関は議会ですが、形骸化しているところが多いようです。

東京都議会はどうか。議会を見た第一印象は、できあがったシナリオを読んでいる学芸会のようなものでした。それではチェック機能は働きません。

豊洲市場移転は大事業ですから、議会がチェック機能を発揮する機会はいくらでもあったはずですが、HPには全部盛り土にしてあると公開してありますから、それを前提に建物の設計図と比較して職員に説明させれば、辻褄(つじつま)が合わないのわかるはずですが。

豊洲市場は農林水産省が承認しなければ開設できません。今の状態では許可されませんから、また余分な税金が使われることになるでしょう。

税務署長をしたときに強く感じたことですが、市民の皆様には誠実に納税していただいているわけですので、税を徴収する側としては税を無駄遣いしてはいけないと身に染みて思っていました。

大きくなりすぎた東京都

もうひとつ東京都には構造的な問題があります。大きくなりすぎたのです。

名古屋市中央卸売市場が移転する場合、名古屋市の責任になります。でも東京は東京都知事

の仕事です。オリンピックも、ロンドンや北京は市の仕事でしたが東京は都の仕事ですから、リオデジャネイロへは小池知事が次期開催地の旗をもらいに行きました。

東京は、地下鉄・水道・下水・消防なども都の仕事です。東京都知事は、県知事と市長の仕事を兼ねているので本来なら寝る暇もないほど忙しいのです。

昭和18年戦時体制のとき、東京府と東京市が合併、府知事は官製知事と言って政府の役人がやっていた政府直結でした。それが今に至って、あまりにも膨大になって市民に縁遠くなっています。税の使い方をチェックしようと思っても大変なのです。元に戻すことを考えなければ本当の地方自治にはならないと思います。

名古屋や大阪で、県・府と市が合併しようという話がありましたが、東京都のようにガバナンスが効かず、情報公開ができず、チェック機能が果たされないものを目指そうというのは、それは民主主義から遠ざかることに思えます。中京都構想も自然消滅しましたし、大阪都構想も市民の投票でダメになりましたが、私はいい選択だったと思います。

あまりにも大きくなると地方自治は運営不能になります。東京都はいささか、そういう症候群に陥っています。それが豊洲市場問題の遠因だと思います。